

# 植物防疫情報第6号

令和5年8月24日  
岡山県植物防疫協会  
岡山県病害虫防除所

## モモせん孔細菌病の秋季防除を徹底しましょう

**本年発生した圃場では来年の発生が多くなる恐れがあります。**本病は単独の対策のみでは十分な防除効果が期待できず、防除を体系的に行う必要があります。このため、秋季からの防除を徹底して、次作に備えましょう。

### 1. 発生状況

岡山県病害虫防除所が8月3日に行った巡回調査によると、モモせん孔細菌病の葉での発生圃場率は42.9%で、過去10年の平均(43.2%)値と比較して平均並ではあるものの、発生の少なかった過去2年に比べ高くなっています(図1)。

### 2. 防除対策及び防除上の参考事項

- (1) 本年の発生要因として春先の多雨の影響により、病原菌の飛散が助長されたことが考えられます。
- (2) 本病の発生圃場において、新梢の枝病斑(夏型枝病斑、図2)から秋期に飛散した病原菌は、当年枝の皮目や落葉痕などで越冬し、翌年4月以降に次作の重要な伝染源となる春型枝病斑を形成します。このため、**夏型枝病斑を除去**し、圃場外に持ち出し埋設するなど適切に処分することが極めて重要です。
- (3) 越冬伝染源量を下げするため、**9~10月の秋季防除**を徹底しましょう。9月上~中旬にバリダシン液剤5の500倍(収穫7日前まで、4回以内)またはスターナ水和剤1,000倍(収穫7日前まで、3回以内)を散布しましょう。また、併せて9月下旬と10月上旬にICボルドー412(30~50倍)を2回散布すると、さらに越冬伝染源量の低下に有効です。
- (4) 風当たりの強い圃場では薬剤だけでは防除効果が得にくいいため、防風ネット等の**防風対策**を徹底しましょう。

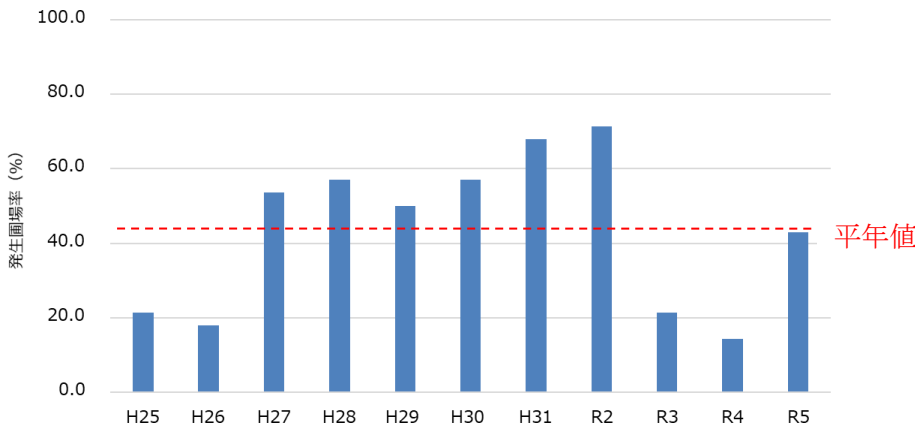


図1 県南部の巡回地点28圃場の8月上旬の発生圃場率  
(岡山県病害虫防除所による巡回調査データ)  
(県内7地点28圃場)



図2 夏型枝病斑(新梢)

**農薬の使用に当たっては農薬使用基準を遵守するとともに、ドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。**収穫後の農薬使用は、次作(令和6年作)での回数のカウントとなりますので御注意ください。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。  
アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

